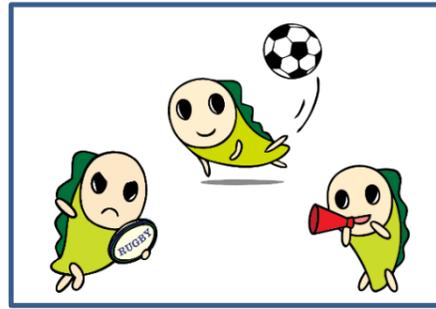


杉並区

【児童・生徒数】 29,916名
【学校・園数】 70校・園

【杉並区の特徴】

水とみどりに恵まれた住宅都市としての性格をもっている。また、歴史・文化・自然環境など各地域にそれぞれの特徴があり、多様な魅力のあるまちである。



【課題・改善】

次の取組へ

【課題】

- ・若干の回復は見られるものの、令和元年度以前の水準までは戻っていないため、児童・生徒の更なる運動習慣の改善、体力向上へとつなげていくことが課題である。
- ・質問調査における「授業は楽しい」及び「運動やスポーツは大切」の割合に対して、実際に運動をしている児童・生徒の割合が伴っていないことが課題である。

【改善】

- ⇒訪問型要請研修にて体育授業改善を支援
- ⇒新たな体力向上センター校の指定
- ⇒外部機関等と連携した取組の継続
- ⇒体力向上に関する予算の拡大

目標

運動時間減少の状況を改善するため、専門的な外部指導者等と連携・運動やスポーツとの多様な関わりを通して、子供自ら健康的な運動習慣の定着を図る。

【実態・課題】

【実態】

- ・運動やスポーツを行う時間は、令和元年度までの数年間の値と比べると、未だ低い傾向にある。特に、曜日ごとの推移を見ると、土日の運動時間が大幅に減少したままである。
- ・児童・生徒の運動・スポーツへの興味・関心を高め、運動習慣の定着につなげるために、体育授業の改善を支援するとともに、家庭への啓発が必要である。

【課題】

- ⇒訪問型要請研修にて体育授業改善を支援
- ⇒体力向上センター校の成果普及
- ⇒外部機関等と連携した取組の継続
- ⇒子供園における環境整備の継続

【成果】

- 体力づくり教室アンケートの肯定的な回答「楽しかった」・「今後も自主的に運動やスポーツをしたい（させたい）」
 - ・跳び箱・マット教室：98%・89%
 - ・親子ラグビー教室（保護者）：100%・100%
- 令和6年度東京都統一体力テスト 質問紙調査の肯定的な回答（R5比較）（小1～中3すべての平均）
 - 「体育の授業は楽しい」92.2%（+0.8）
 - 「運動やスポーツは大切」94.9%（+0.7）

○ 外部機関等の連携した取組実施回数

FC東京	16校	80回
日本バレーボール協会	9校	122回
一般社団法人あそび庁	3校	10回

【取組】

- 訪問型要請研修にて体育授業改善を支援
 - ・学校や教職員の課題やニーズに応じ、体育授業改善等、全教職員対象のものから個人・少人数が対象のものまで、指導主事をはじめとした職員を学校の要請に応じて派遣。
- 体力向上センター校等の成果普及
 - ・杉並区教育委員会教育課題指定研究校（体力向上センター校）やグループ研究の取組について、成果普及。
- 外部機関等と連携した取組の継続
 - ・日本バレーボール協会、FC東京及び一般社団法人あそび庁と連携し、運動に慣れ親しむ機会として、各校のニーズに応じた出前授業を実施。

【取組（詳細）】

○ 訪問型要請研修にて体育授業改善を支援

学校や教職員の課題やニーズに応じ、校内研究や校内研修、ICTの利活用、日々の授業づくりへの支援等、全教職員対象のものから個人・少人数が対象のものまで、指導主事をはじめとした職員を学校の要請に応じて派遣することにより、学校の教育力や教員の指導力等の向上に資することを目的として実施した。

その中で、体育授業改善について、学校の要請を受けて訪問し、授業観察とともにフィードバックをすることにより、授業者の授業力向上につなげることができた。



振り返り時に、授業者が児童へ価値付けをしたり発問をしたりする様子

○ 体力向上センター校等の成果普及



体力向上センター校による授業公開の様子

杉並区教育委員会教育課題指定研究校（体力向上センター校）やグループ研究（希望者からなる教科ごとのグループによる研究）の、成果報告会や授業公開を通じて成果普及を行った。

体力向上センター校では、杉並区や各校の体力に関する課題の改善に向け、エビデンスに基づく成果指標を設定し、授業改善を中心に研究を進めた。

成果普及は、成果報告会等の結果のみにこだわらず、日常の授業や運動遊び、食事や休養・睡眠に関する実践等、過程も公開するよう工夫した。

○ 外部機関等と連携した取組の継続

令和4年度のスポーツライフ推進地区指定時から継続してきた日本バレーボール協会及びFC東京と連携した取組を実施した。今年度は、FC東京との特別支援学級対象の「きらきらサッカー」の普及もメニューとして拡大した。

また、日常的な運動遊びの楽しさを児童・生徒が味わえるように、一般社団法人あそび庁の「世界のあそび授業」、「しあわせ（ウェルビーイング）授業」、「あそびクリエイター授業」等のメニューのもと、様々な遊びを体験する中で子供たちの良好な関係づくりや、遊びを通じて「しあわせ」を感じることをねらいに実施した。



特別支援学級における「きらきらサッカー」の取組の様子